

点検の不動産利活用

第3回

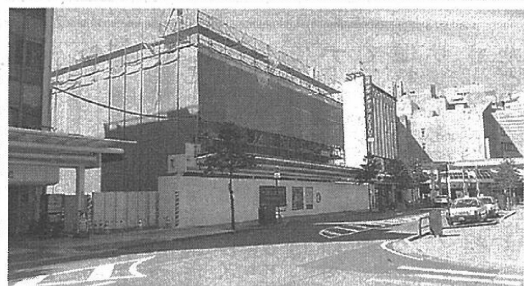
一般財団法人日本不動産研究所

福井の地名は、諸説あるが、福井城の築城当時から天守台のそばにあった「福の井」と呼ばれる井戸に由来すると言われている。よく湧き出る特別な井戸として、当時の人々に親しまれていたことであろ

地元足羽山の同じ大きさの笏谷石を幾十にも積み重ねた城の石垣は400年前の歴史と共に機能美の素晴らしさを今に伝える。しかし、この福井城址が存する福井駅周辺および福井城址周辺地区では、戦災・戦後の福井地震による震災から70年以上経過し、戦災復興土地区画整理事業に伴

は、完了したものも含めて主に以下の開発計画がある。
①福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業——16年に完了した事業で、施設建物(通称「ハビリン」)は約3万5000㎡、用途は商業施設・公共施設・分譲マンション等

②福井駅前電車通り北地区A街区第一種市街地再開発事業——23年3月に施設建物が竣工予定で、施設建物(2棟)は約7万2000㎡、用途は商業施設・ホテル・オフィス・分譲マンション等
③福井駅前電車通り北地区B街区第一種市街地再開発事



①福井駅前電車通り北地区A街区第一種市街地再開発事業では2棟約7万2000㎡が竣工予定 ②21年にマンション棟が先行して竣工する福井市中央1丁目10番地区・優良建築物等整備事業

18年に再生計画

そこで、市街地再開発事業等を活用しながら、官民が連携し良好な市街地環境の形成を進めている。23年春予定の北陸新幹線の延伸後を見据え、将来にわたって持続可能なまちを実現し、都市の競争

新幹線延伸を控え開発ラッシュ 福井市

地区一体の協同運営を

力を強化することを目指す。福井市は18年1月に「福井駅・城址周辺地区市街地総合再生計画」を策定した。具体的には次の開発計画等が進行している。
⑤駅前南通り地区B街区第一種市街地再開発事業——23年春に施設建物が竣工予定

共存と永続へ

JR福井駅西口地区は開発ラッシュの状況であるが、その多くは北陸新幹線延伸の23年春に建物竣工が集中しており、建物のコンセプトも類似点が多い。そこで、それぞれの石が支え合いながら機能する石垣の

商・公・住の複合施設(通称ハビリン)が16年に完成



西口地区で

宮岡広英)